

平成 2 3 年度病害虫発生予報第 9 号

平成 2 3 年 1 2 月 1 日
愛 知 県

野菜

キャベツ黒腐病の発生がやや多い状況です。被害残さは次作の伝染源となるので、ほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。キャベツ菌核病の発生は少ない状況ですが、発病株は伝染源となるので、見つけ次第早めに抜き取り適切に処分しましょう。

ナスとキュウリでは、ミナミキイロアザミウマの発生が多いほ場があります。多発すると防除が難しくなるので、ほ場での発生状況をよく観察し、早めに防除しましょう。キュウリでは、本種がキュウリ黄化えそ病の原因となるウイルス（MYSV）を媒介するので、防除を徹底しましょう。また、発病株は伝染源になるので、早めに抜き取り適切に処分しましょう。

トマト黄化葉巻病の発生は平年並ですが、発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取り適切に処分しましょう。タバココナジラミは低密度でもトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）を媒介するので、防除を徹底しましょう。トマト葉かび病の発生は少ない状況ですが、草勢が低下すると発生が多くなるので、肥培管理に注意しましょう。また、多湿条件下で多発するので、換気を十分に行い、過湿にならないよう注意しましょう。なお、農薬は葉裏にもかかるように丁寧に散布しましょう。

施設野菜の灰色かび病は、例年気温が低下するこの時期から発生が多くなるので、初発を確認したら速やかに防除しましょう。特に、暖房機の設定温度を低くしている場合は、施設内が多湿になりやすいので注意しましょう。また、発病果や発病葉は速やかに取り除いて適切に処分しましょう。

イチゴでは、うどんこ病の発生が多いほ場があります。ほ場での発生に注意し、初期防除を心掛けましょう。また、ハダニ類の発生が多いほ場があります。発生初期に的確に防除しましょう。ミツバチや天敵を導入しているほ場では、それらへの影響に注意して農薬を選定しましょう。

野菜

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ハクサイ キャベツ	コナガ	やや少ない	全域	11月下旬の発生量はやや少ない フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない	- -
キャベツ	菌核病	平年並	全域	11月下旬の発生量は少ない 12月の降水量は多い	- +
トマト (施設)	葉かび病	平年並	全域	11月下旬の発生量は少ない 12月の日照時間は少ない	- +
	黄化葉巻病	平年並	全域	11月下旬の発生量は平年並	±
	コナジラミ類	平年並	全域	黄色粘着トラップにおける誘殺数は平年並	±
ナス (施設)	ミナミキイロ アザミウマ	多い	全域	11月下旬の発生量は多い 青色粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	+ +
キュウリ (施設)	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	全域	11月下旬の発生量は平年並 青色粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	全域	11月下旬の発生量はやや少ない 12月の日照時間は少ない	- +
	うどんこ病	やや多い	全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の日照時間は少ない	± +
	ハダニ類	やや多い	全域	11月下旬の発生量はやや多い	+

・ 防除対策

〔ナス（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

11月7日発表の「平成23年度病害虫発生予察注意報第6号」を参照してください。

〔イチゴ（施設）・うどんこ病〕

ストロビーフロアブル、バイコラル水和剤、ベルコートフロアブルなどで防除しましょう。

〔イチゴ（施設）・ハダニ類〕

ハダニ類の発生が多いほ場では、コロマイト水和剤やスターマイトフロアブルなどで防除しましょう。ミツバチや天敵を導入しているほ場では、それらに影響の少ない農薬を選定してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台 11月25日発表）

予想される向こう1か月の天候

東海地方では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は高い確率が70%です。降水量は、多い確率50%です。日照時間は、少ない確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%、2週目は高い確率60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率

〔気温〕 低い：10% 平年並：20% 高い：70%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：30% 多い：50%

〔日照時間〕 少ない：50% 平年並：30% 多い：20%

予想される天候の特徴

当地方の向こう1か月の天候は、冬型の気圧配置は平年より弱く、低気圧や前線の影響を受けやすいでしょう。平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。

「農薬使用者のみなさんへ」

飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。

農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。

農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。

農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。

農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。

E-mail 配信のご案内

予報（病虫害の発生予察情報）、最新情報（病虫害の防除情報など）、注意報、その他情報（いもち病情報など随時）などをメール（Word形式）でお届けします。（月2回程度）

ご希望の方は

件名に「E-mail 配信の申し込み」

本文に 氏名

住所（市町村までで結構です）、

職業（例 農薬メーカー、農業）

以上を記入し、病虫害防除グループまでメールでお申し込みください。

病虫害防除グループメールアドレス byogaichu@pref.aichi.lg.jp



あいち病虫害情報

E-mail 配信
2011.10.1

発生予察情報

- ・ [予報第7号（10月）](#)
PDFファイルを使用しています。
- ・ [吸蜜性カメムシ情報第1号（ダイズ）](#)
PDFファイルを使用しています。
- ・ [調査データ](#)
トラップ（フェロモン、粘着）及び予察灯への誘殺数のグラフです。
PDFファイルを使用しています。

[あいち病虫害情報ホームページのトップはこちら。](#)

（リンク先が表示されない場合はCtrlキーをおしながらクリックしてリンク先を表示する）

（連絡先）愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病虫害防除グループ
電話 0561-62-0085